

# 多摩市の「協創」の取組みについて

- ▶ 1 背景・課題
- ▶ 2 対応・考え方
- ▶ 3 具体的な取組み事例
- ▶ 4 市の進める環境整備

令和7年2月1日

# 1 背景・課題

## 多摩市自治基本条例

平成6年施行  
(2004年)

まちづくりの最高規範  
市民主体のまちづくりを進めていくための  
基本的な考え方

参画

市民が、まちづくりに主体的に参加し、行動すること

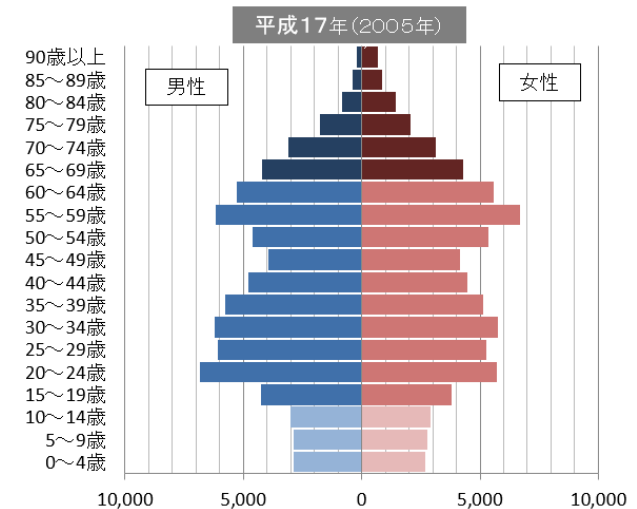
協働

市民・議会・行政が、それぞれの役割、責任のもとで、まちづくりのために、ともに考え、協力し、行動すること

多様な地域活動団体の活動や  
市政への参画では「パブリックコメント」「ワークショップ」など



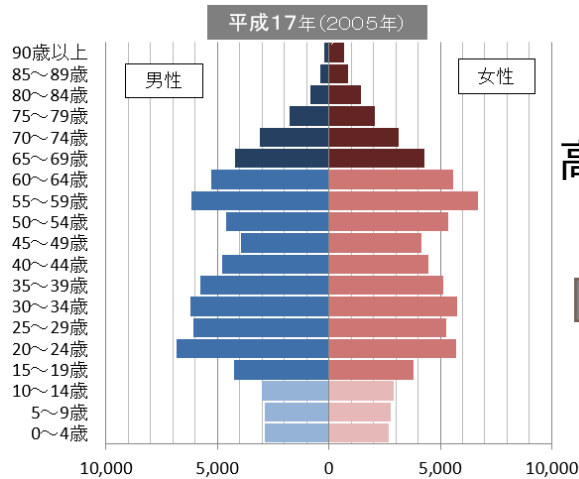
2005年(国勢調査)



高齢化率 15.8%  
人口 145,877人

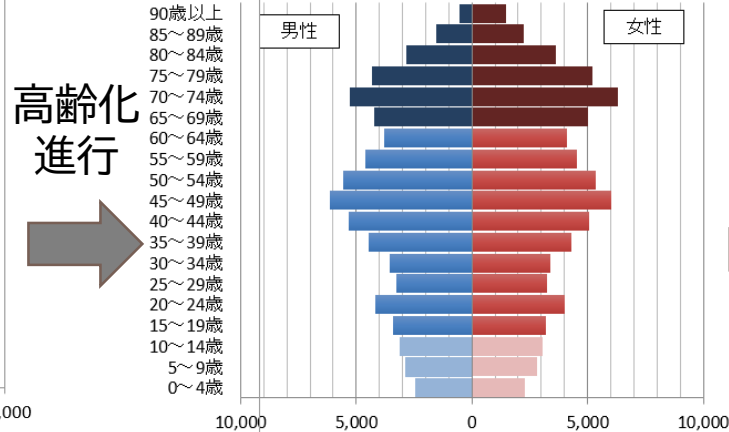
# 1 背景・課題

2005年(国勢調査)



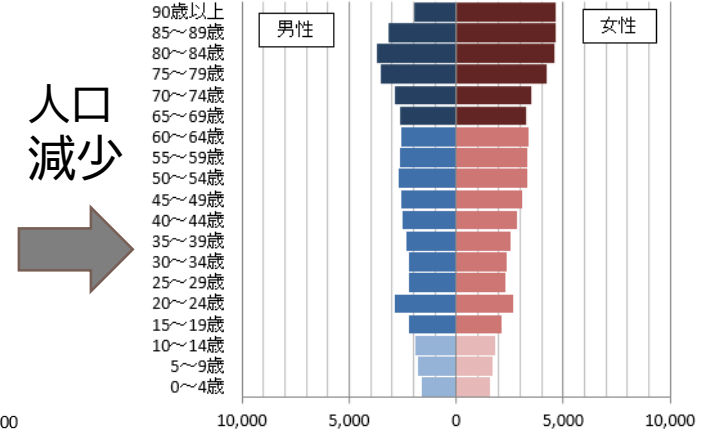
高齢化率 15.8%  
人口 145,877人

2020年(国勢調査)



高齢化率 29.0%  
人口 146,951人

2060年(社人研推計)



高齢化率 40.4%  
人口 105,969人

高齢化  
進行

人口  
減少

- 高齢化の進行
- ライフスタイルや働き方の多様化 + ●コロナ禍
- 地域が抱える課題の多様化・複雑化

取り組むべき  
課題

第五次多摩市総合計画第3期基本計画

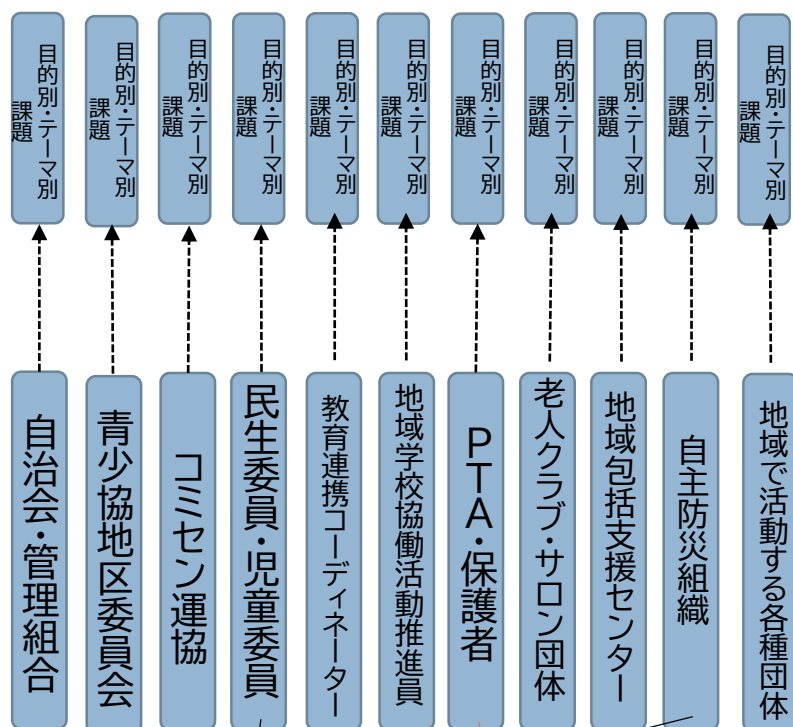
「市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり」

※国でも同様の議論

## 2 対応・考え方

### 現 状

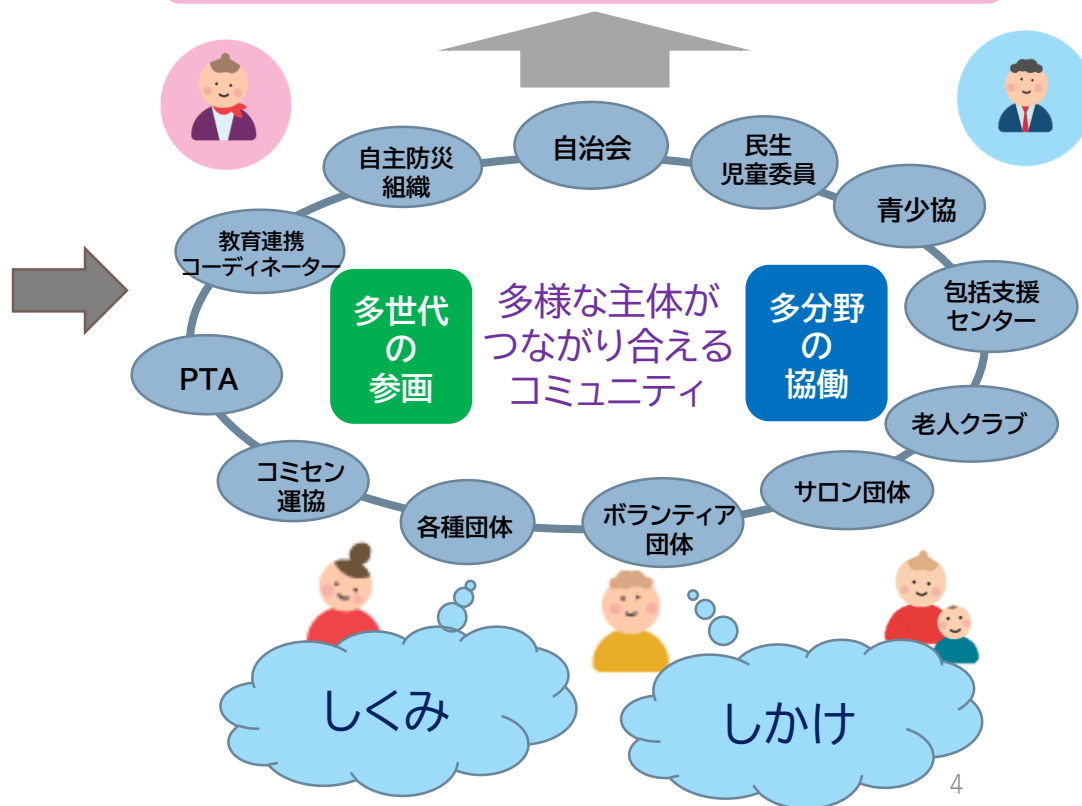
行政：分野ごとに対応、庁内連携不足  
市民：リーダー層の重複、担い手不足



### 将 来

行政：横断的に対応、庁内で情報共有  
市民：プレーヤー層の拡大、楽しみながら

課題解決、地域の魅力や価値の創造



## 2 対応・考え方

### 協創とは

自治基本条例に  
盛り込みました

#### 多世代 の 参画

- 子どもたち（小中学生）
- 若者（高校生、大学生、社会人）
- 現役世代・子育て世代（30代～50代）
- シニア世代（60代～）



#### 多分野 の 協働

- コミュニティの醸成、地域の活性化
- 子育て、高齢、障がい、生活困窮者対策
- 教育、青少年の健全育成
- まちづくり、環境との共生



多世代にわたる参画  
多分野における協働

が創出されることで、

誰もがつながり合える(多世代共生型)コミュニティ

が生まれ、これが広がりをもつことによって、

様々な地域課題の解決 +  
新たなまちの魅力や地域の価値が創造

されること

市の執行機関による必要な環境整備（地域で協創を実現するためのしくみ・しかけづくり）

地域を「支える」

地域を「つなぐ」

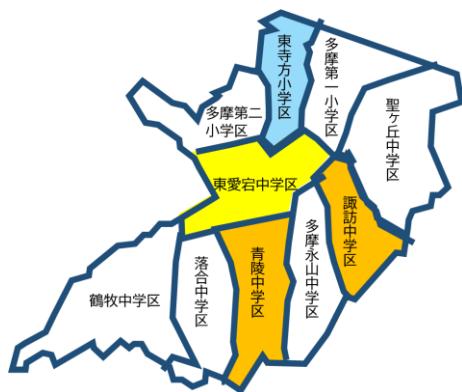
地域の中で「掘り起こす」

### 3 具体的な取り組み事例

市内4つの地区を  
**モデルエリア**に指定



エリアの中で  
地域の皆さんと  
ワークショップや  
プロジェクトでの  
**実践**を通して  
しくみ・しかけを検討



東寺方小エリア



参加しやすい場づくり  
に関して**中央大学国際  
経営学部中村ゼミ**と  
共同研究

拠点の開設に合わせて  
**一般社団法人  
コミュニティネット  
ワーク協会**と協働

東愛宕中エリア



諏訪中エリア



若者世代の参画に関して  
**合同会社 MichiLab  
(多摩市若者会議)**と協働

青陵中エリア





### 3 具体的な取り組み事例

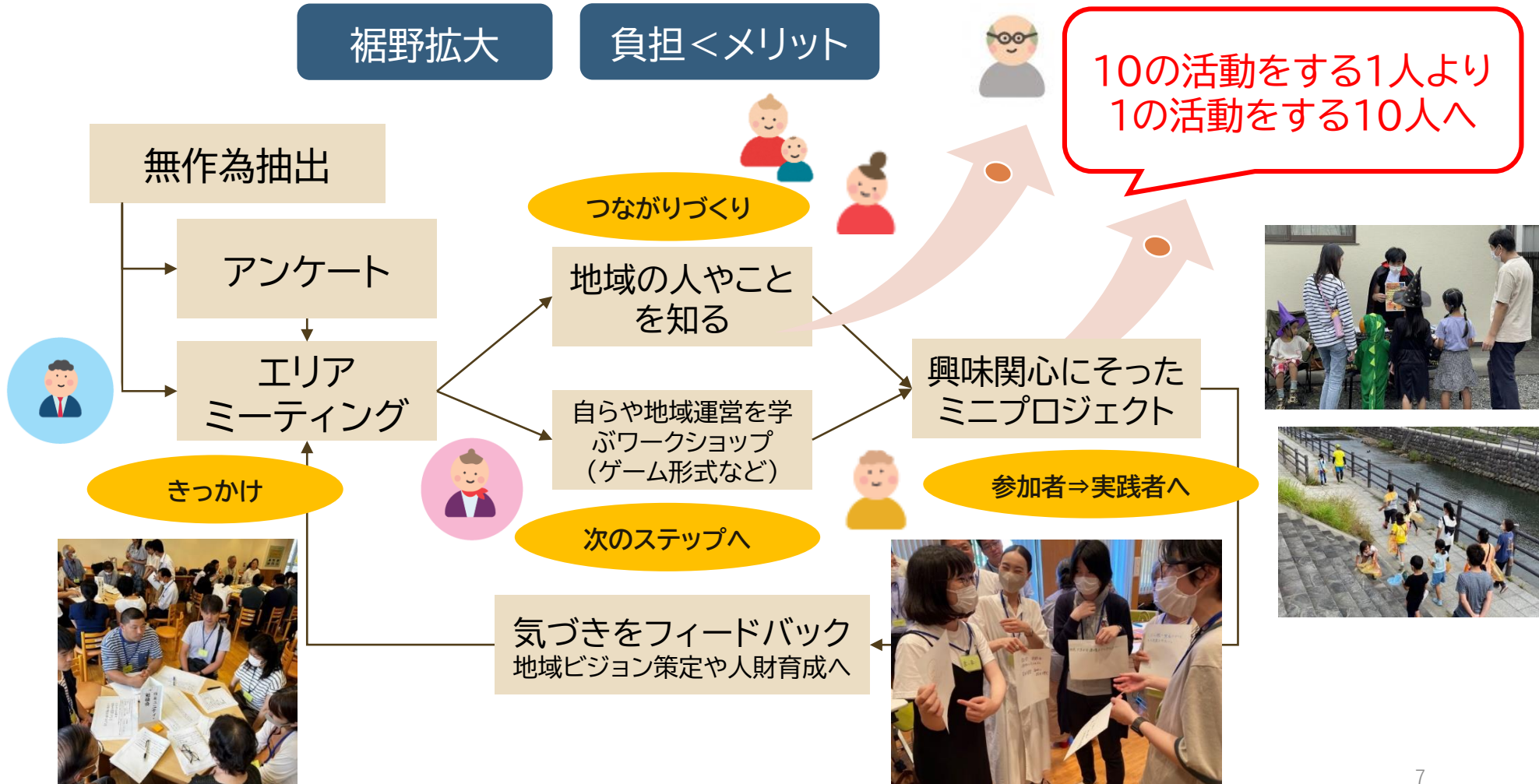
2020年に東寺方小エリア居住者への無作為抽出アンケート

538名から回答

・地域活動に関心がある50%、現在参画中は10%。

裾野拡大

負担<メリット



### 3 具体的な取り組み事例



■東寺方小エリア  
無作為抽出によるエリアミーティング



■東寺方小エリア  
スターバックス聖蹟桜ヶ丘オーパ店とのごみ拾い企画



■青陵中エリア  
無作為抽出によるエリアミーティング



■諏訪中エリア  
住民主体の活動試行



■東愛宕中エリア  
誰でもカフェあたごでのニーズ聞き取り



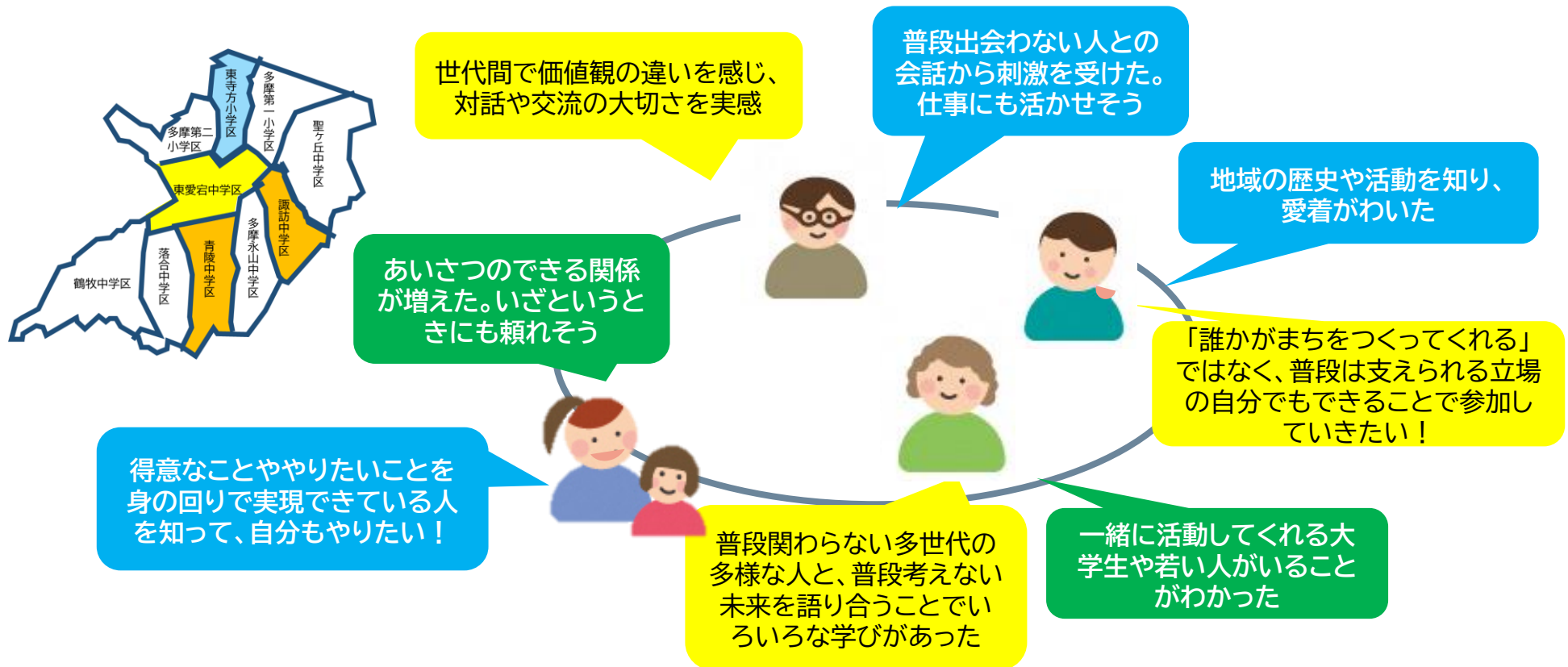
### 3 具体的な取り組み事例

#### 地域でのつながりづくりのメリット（参加者の声）

##### ①ウェルビーイングの観点

##### ②セーフティネットの観点

##### ③持続可能性の観点



## 4 市の進める環境整備



### 地域で「協創」を実現するための環境整備

#### 3つの視点

地域を「**支える**」  
地域で活動する人・団体を応援する

地域を「**つなぐ**」  
地域で活動する人・団体が縦横に  
つながる場・機会をつくる

地域の中で「**掘り起こす**」  
新たな地域人材を発掘・育成する

職員体制  
研修制度

第三者  
による支援

場づくり・  
関係性の構築

若い世代の  
参加促進

#### 4つのしくみ・しかけ

協創職員制度の導入

中間支援機能を担う団体  
による伴走支援

多活動マッチング型の  
地域プラットフォームづくり

地域共助が可視化できる  
ツールの導入

## 4 市の進める環境整備

### 協創職員制度の導入

#### 地域を「支える」

##### ■協創職員制度

- 協創スタッフ（専任職員）
- 協創サポーター（若手職員の研修）
- 協創シニアサポーター（ベテラン職員の活用）

##### ●協創スタッフ（R6.4協創推進室設置）

###### ■協創スタッフとしての職務内容

- 地域を**支える**（≡アドバイス）
  - 分野横断的な行政側の窓口、情報の収集・提供
  - 関係課と地域との橋渡し、庁内調整
- 地域を**つなぐ**（≡コーディネート）
  - 地域の会議に参加し、関係づくり
  - 団体間、人同士をつなぎ、ネットワーク形成
- 地域の中で**掘り起こす**（≡プロデュース）
  - エリアミーティングの開催等で新たな人材発掘
  - 地域カルテ、地域ビジョンの策定を通じた人づくり



地域みなさんと一緒に活動して、今後活かせるスキルやネットワークを得る

##### ●協創サポーター（R6.10～試行）

###### ■協創サポーター研修制度（若手職員）

- 研修
    - ・地域のイベントや事業への参加、支援
    - ・市の職員としてのスキルアップ、能力育成を図る（コミュニケーション能力、ファシリテーション能力）
- ⇒令和6年度は公募職員による試行（11課17名）  
⇒令和7年度は2年目全職員（本年度1年目36名）

##### ●協創シニアサポーター（構想中）

- 役職定年を迎えた管理職経験職員のキャリアを地域で活用検討



組織で得たスキルやネットワークを地域に活用して協創の実現に貢献

## 4 市の進める環境整備

### 協創職員制度の導入

#### ●協創サポーター（R6.10～試行）

市として地域を「支える」  
＋  
職員としての「スキルアップ」

普段の業務では知り得ない地域の  
取組みを知ることができた

市役所内外の  
つながりができた

「つながり」



「知る」

コミュニケーション・ファシリテーションを学べた

「学び」

#### ■参加事業

- ・コミセン秋祭り
- ・自治連スポレク
- ・ランタンフェス など

※30行事にのべ61名参加

東寺方秋まつり



多摩大聖高校街なか期末テスト 東寺方エリアミーティング



きずな全体会72hゲーム



かるがも館まつり



スポレク



こぶし館まつり



誰でもカフェあたご



（地域の声）  
若い職員が参加してもらえて助かった。  
地域の活動を理解してもらえると嬉しい。



## 4 市の進める環境整備

### 中間支援機能を担う団体による伴走支援

地域を「支える」・地域を「つなぐ」

#### ■ 中間支援機能を担う第三者が伴走しながら地域を支援・つなぐ

##### ● 地域発の多様な活動を

⇒ 協創スタッフによる、アドバイス、コーディネート、プロデュース

+ 中間支援機能を担う団体のもつネットワークなどで実現していく



現在は

- 中央大学国際経営学部中村ゼミ
- MichiLab(若者会議)
- コミュニティネットワーク協会 と連携して活動中

○ 市民でも行政でもない立場から「支える」

○ プロジェクトや活動を通じて、地域にある資源を縦（多世代）や横（分野横断）に「つなぐ」

## 4 市の進める環境整備

### 多活動マッチング型の地域プラットフォームづくり

地域を「つなぐ」・地域の中で「掘り起こす」

#### ■ 様々な活動と人や地域資源をマッチングできるプラットフォーム

- 多世代が参加する場 「エリアミーティング」 の開催（交流・対話）
- 人同士、団体同士のマッチング（実践へ）
- 地域の課題、活動組織・団体のあり方検討

「掘り起こし」



交流・対話

「つなぐ」



実践

## 4 市の進める環境整備

### 地域共助が可視化できるツールの導入

地域の中で「掘り起こす」

今後着手予定

- 地域の共助活動が可視化できるツール(地域ポイント・地域通貨)の導入  
ITツールを活用し、地域参加をポイント化するなど、可視化できるしくみをつくり、そのポイントを、地域通貨などで地域で利用できるしくみを導入することにより、大学生や若い世代の参加促進につなげる

主なキーワード

○DX活用

○楽しむ、誘い合わせる

○できるときにできる範囲で、無理なく



## 4 市の進める環境整備

### 協創フォーラム

日 時 : 2/1(土) 14時~16時  
会 場 : 中央図書館 活動室1

【対談】「多摩市自治基本条例策定と  
できてから20年の変化」  
阿部市長と白鳥氏(第九期自治推進委員会委員長)

【活動報告】市や活動者からの活動報告

各エリアでの活動実践の紹介

【対話】(終了後) 来場者と発表者の懇談

16時以降、パネル展示と対話

市民への周知





担当：多摩市 協創推進室  
042-338-6803  
kyoso@city.tama.tokyo.jp